

評価分類	評価項目 評価細目	質問項目及びその内容	基本版	養護 相談	虐待 相談	非行 相談	障害 相談	育成 相談	保健 相談
FF.	FF-a 家族の特徴 (家族アイデンティティ)	FF-a 家族の特徴(家族アイデンティティ) ◆現在の家族の戸籍的關係 ◆養育者たちの出自家族との関係性 ◆現在の家族のありかたに関するメンバーの受容感	2.0	0.8	0.8	2.4	4.9	2.4	6.9
	FF-b 家族史	◆対象の子どもの誕生から現在までのおもな出来事(ライフイベントの種類と発生時期)	3.1	1.6	1.6	3.3	4.1	1.6	9.6
	FF-c 家庭の課題	FF-c 家庭の課題 ◆メンバーの家族・家庭のあり方に対する課題意識と将来計画 以下の内容について、家族メンバーの将来的希望や展望について尋ねる。 あるいは、現在の家庭について問題点や解決の方向について自由に尋ねてみて、その内容から判断する。具体的な内容はスコアリング・シートに記載し、今後の支援方針の作成の参考にする。	4.1	2.5	2.5	4.1	5.7	3.3	12.2

3. 地域社会

評価分類	評価項目 評価細目	質問項目及びその内容	基本版	養護 相談	虐待 相談	非行 相談	障害 相談	育成 相談	保健 相談
SA.	SA-a-1 近隣の同 年齢の子 どもの存 在と交流 状況	SA-a-1 近隣の同年齢の子どもの存在と交流状況 対象の子どもの居住する地域に同年齢の子どもたちがどの程度存在するのか、また対象の子どもの存在と交流できているかどうかについて、おおまかな状況をつかむ。	3.1	4.1	4.2	5.8	4.2	2.5	10.3
	SA-a-2 近隣との 地域コ ミュニ ケーシ ョンのよ うす	SA-a-2 近隣との地域コミュニケーションのようす 対象の子どもの居住する地域の地域交流や連帯意識のありかたについて、また対象の子どもの家庭がそれらにどのように参加しているか、おおまかなようすをつかむ(該当するもの1つ)。	5.2	4.1	4.2	5.8	4.2	3.3	12.1
	SA-b 居住地 の状況 と養育 の利便 さ	SA-b 居住地の状況と養育の利便さ ◆対象の子どもの居住地域の特徴 対象の子どもの現在の居宅が属する地域を1つ選択する。	7.1	9.0	8.3	11.5	9.1	10.7	17.2
		◆周辺環境に関する満足度	15.5	16.5	15.8	17.4	15.0	15.7	24.1
	SA-c 地域の安 全性	SA-c 地域の安全性・健全性 ◆居住地域の安全性	9.4	11.7	10.9	7.5	10.9	12.5	19.1
	SA-d 地域の遊 び場とそ の利用状 況	SA-d 地域の遊び場とその利用状況 ◆対象の子どもの居住地域内の児童館、児童公園(遊園)の有無とその活動状況、また対象の子どもの家庭のそれらへの利用状況について養育者などに尋ねたり、調べたりする ① 児童館(1つ選択) ② 児童公園(1つ選択)	9.4	11.6	11.7	16.5	10.8	10.7	19.0
	SA-e 文化的環 境	SA-e 文化的環境 居住地域の子育て関連の養育者や子ども向けの事業や学習機会の有無とその利用のようす(1つ選択)	12.5	14.9	12.5	16.5	14.2	12.4	23.3
SA-f 自然環境	SA-f 自然環境 ◆近隣の自然環境のようすや自然公園の有無、および対象の子どものそれらへのアクセス状況について見る(1つ選択)。	21.3	21.8	21.2	22.7	22.0	20.2	26.3	
SB.	SB- a,b,c,d ソーシャル ・サ ポートの 実態と評 価	SB-a,b,c,d ソーシャル・サポートの実態と評価 ← 子育て支援者と重なる?? ◆子どもや養育者、あるいは家庭に対する現在の支援者および将来期待できる家庭外のサポート資源についての見通しを聞く。面談者に直接尋ねるか、調査して判断する。現在、困ったときに頼りにしているのはだれか、尋ねる(あてはまる人すべてをあげる)。	2.1	1.7	1.7	3.3	4.1	1.6	6.9

評価分類	評価項目 評価細目	質問項目及びその内容	基本版	養護 相談	虐待 相談	非行 相談	障害 相談	育成 相談	保護 相談
SC.									
SC-a-1	SC-a-1 対象の子どもが利用している教育・福祉機関(施設?)の養育環境 対象の子どもが所属する教育・福祉機関について、当該機関の種類、利用時間、養育環境の良否さについて情報を収集する。必要ならば現況観察をおこなう(★NICHD, Early Child Care Research Network, 学校環境評価尺度など) ◆利用の実態 ◆学校環境の適切さ(学校環境評価尺度, 1983など)。対象の子ども本人に尋ねる。		4.2	6.6	5.0	5.8	5.8	5.0	11.3
		◆学校と家庭との連携の状態(学校との信頼関係尺度、伊藤ほか、20043)	1.1	1.7	0.8	1.7	1.7	0.8	6.1
		◆利用先での子どもの適応状況(学童保育について評価する。学校については子どもパート参照)	1.1	3.4	0.8	1.7	2.6	0.9	9.6
SD.									
SD-a	SD-a 利用可能なおもな子育てサービス・支援機関の有無とその利用度 ◆これまでに子育てに関して行政機関や民間機関に相談したことや利用したこと、あるいは活動に参加したことあるかどうか面談者に尋ねる。同時に、今回のケースの解決に役立つ機関があるかどうか、面談者とともに検討する。		2.1	2.5	2.5	5.0	3.3	3.3	6.0
SD-b	SD-b サービスの活用状況 ◆各種手当ての利用状況について尋ねる		3.2	3.4	5.1	10.2	2.5	6.8	9.7

相談種別における実態把握・評価(アセスメント)質問項目

(思春期用)

1. 子ども

評価分類	評価項目詳細	質問項目及びその内容	基本版	養護相談	虐待相談	非行相談	障害相談	育成相談	保健相談
CA.	CA-a 身体的 発育	CA-a-1 身体サイズおよび身体機能のバランス ◆現在の身長と体重を記録して生年月日をもとに発達発育曲線にプロットする ◆プロット位置から身体発育状況を判断する	現在						
			1.2	4.2	0.8	10.7	4.2	7.4	2.7
		過去							
	5.1	7.3	6.2	23.0	7.3	15.3	7.5		
	CA-a-2 歯科学的発達状況 ◆永久歯の出現状況について、遅れがないかみていく ◆口腔衛生状況(虫歯および歯磨き)を評価する。	18.0	21.0	17.4	33.6	16.8	29.8	15.8	
		28.9	31.4	23.6	45.4	24.8	31.6	23.0	
	CA-a-3 栄養状況 ◆哺乳・摂食状況(食欲) 最近1ヶ月程度の期間について、病気時ではないときの食欲について情報収集する。食欲不振か食欲過多かをそれぞれ判断する。	4.5	5.1	5.8	18.2	9.3	4.9	5.4	
		12.9	9.4	7.4	28.7	13.2	21.5	11.8	
	CA-a-4 身体のおざ・傷の有無 ◆身体検査時などに不自然なおざや傷などの身体的損傷の有無を確認する	1.1	4.2	0.8	10.7	8.4	14.0	15.0	
		6.0	9.3	4.5	13.6	13.9	17.4	18.6	
	CA-a-5 性的成熟・発達 ◆思春期の身体的成熟について、以下の質問を本人、あるいは養育者に尋ねる(Puberty Development Inventory より)。 ☆ 男子用 * 声変わりした * 精通があった(歳 ヶ月) ☆ 女子用 * 胸が膨らみ始めた * 初潮(生理)を迎えた(歳 ヶ月) ◆異性への関心や性的体験、行動について、以下の質問を本人、あるいは養育者に尋ねる。	3.3	8.4	4.1	2.4	8.4	8.3	7.1	
		18.8	20.6	16.3	16.2	21.6	21.4	21.4	
	CA-b 身体能力の 発達	CA-b 身体能力の発達 ◆体力の発達 年齢相応の体力の発達が進んでいるかどうかを体力診断(垂直とび、握力、立位体前屈、反復横とび、踏み台昇降など)の結果から判断する。 ◆運動の不器用さ 微細および粗大運動における不器用さを有しているかどうかを以下の質問を養育者や教師にどうか観察する(Movement-ABC, Clumsiness Screening Scale より)	3.4	12.6	7.4	16.4	4.2	10.7	9.6
			12.2	22.1	15.1	28.0	10.5	21.9	17.8
	CA-c-1 身体疾患および 身体的障害	CA-c-1 身体疾患および身体的障害 ◆先天性の疾患や異常、身体・運動機能の異常・障害、感覚機能(視覚や聴覚など)の異常や障害およびアレルギー症状(アトピーやぜんそく)の有無についての情報を収集する。	2.2	4.2	2.5	9.8	0.8	5.8	1.8
			6.1	8.7	7.5	17.9	2.9	10.5	5.9
	CA-c-113 身体・運動機能の異常・障害	CA-c-113 身体・運動機能の異常・障害	1.1	3.4	1.7	9.0	7.5	5.0	1.8
			4.9	5.8	4.7	14.2	1.0	6.7	4.0
CA-c-115 感覚機能の異常・障害	CA-c-115 感覚機能の異常・障害	1.1	7.6	4.1	9.8	0.8	6.6	2.6	
		7.2	4.3	11.2	17.8	4.7	11.3	7.8	
CA-c-117 アトピーやぜんそくなどのアレルギー症状の有無	CA-c-117 アトピーやぜんそくなどのアレルギー症状の有無	0.0	2.5	0.8	9.9	0.0	3.3	0.0	
		7.0	9.3	8.2	19.1	8.3	10.1	5.8	
CA-c-119 疾患や障害の重症度と機能障害の程度	CA-c-119 疾患や障害の重症度と機能障害の程度 ◆入院の有無、障害の認定および日常生活の困難度について、情報を収集する。	2.2	5.0	2.5	2.5	0.0	5.0	0.9	
		7.2	9.3	8.1	19.8	2.8	9.2	5.8	

評価分類	評価項目 目録 細目	質問項目及びその内容	基本版	養護 相談	虐待 相談	非行 相談	障害 相談	育成 相談	保健 相談
	CA-c-2 精神障害	CA-c-2 精神障害 ◆ 精神障害の有無についての情報を収集する。	1.1	5.9	2.5	1.7	2.5	1.7	4.4
			7.1	9.4	5.6	5.6	5.7	6.5	9.7
	CA-c-23 障害の重症度と機能障害の程度 ◆ 入院の有無、障害の認定および日常生活の困難度について、情報を収集する。		1.1	3.4	1.7	2.5	1.7	2.5	3.5
			9.5	9.4	5.6	9.3	6.6	8.4	9.7
	CA-c-3 情緒・ 行動上 の問題	CA-c-31 反社会的問題行動傾向(行為の反社会性) ◆ 以下の項目にあてはまる行動がしばしばみられるかどうか、養育者や教師に質問するかあるいは観察によって評価する。(Strength and Difficulties Questionnaire, Goodman, 1999)。すべてにあてはまる場合には対象の子どもの行為の反社会性を有しているか、DSM-IV-TR(アメリカ精神医学会, 2000)などの行為障害に相当しないかどうか精査する。	1.1	3.4	0.8	0.8	5.9	0.8	11.5
			6.0	7.5	3.7	1.9	11.5	3.7	15.5
		CA-c-32 注意欠陥・多動傾向 ◆ 以下の項目にあてはまる行動がしばしばみられるかどうか、養育者や教師に質問するかあるいは観察によって評価する。すべてにあてはまる場合には、対象の子どもの多動傾向や注意散漫さを有していることが示唆され、DSM-IV-TR(アメリカ精神医学会, 2000)などの注意欠陥・多動性障害に相当しないかどうか精査する(Strength and Difficulties Questionnaire, Goodman, 1999)。	2.2	4.2	1.7	1.7	2.5	1.7	12.4
			4.8	7.6	6.6	3.8	3.8	4.7	14.7
		CA-c-33 学習障害傾向 ◆ 以下の項目にあてはまる行動がしばしばみられるかどうか、養育者や教師に質問するかあるいは観察によって評価する。どこかにあてはまる場合には、対象の子どもの読む、書く、計算能力における特異的な問題を有している可能性が示唆され、DSM-IV(アメリカ精神医学会, 2000)などの学習障害に相当しないかどうか精査する(学習障害のスクリーニング、宇野, 2004)。	2.2	5.1	2.5	1.6	0.8	0.8	12.4
			6.0	9.5	7.4	5.6	4.7	5.6	16.8
		CA-c-34 抑うつ傾向 ◆ 以下の項目にあてはまる行動が1週間以上にわたって継続してみられるかどうか、本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。すべてにあてはまる場合には、対象の子どもの抑うつ状態にあることが示唆され、DSM-IV-TR(アメリカ精神医学会, 2000)などのうつ病性障害などに相当しないかどうか精査する(Birleson, Child Depression Self-rating Scale, 1981, 菅原他, 2003より)。	2.2	5.9	2.5	3.3	7.6	1.7	8.9
	7.1	12.4	7.5	6.5	14.4	6.5	13.9		
	CA-c-35 学校不適応傾向 ◆ 登校困難 以下の項目について、本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。(学校不安感尺度、猪子, 2004)。 ◆ 学校での孤立感 以下の項目について、本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。(学校不安感尺度、猪子, 2004; 学校不適応感尺度、酒井他, 2003)。 ◆ 学校での反社会的行動 以下の項目について、本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。(学校不適応感尺度、酒井他, 2003)。		2.2	4.2	2.5	3.3	5.1	1.7	12.4
			7.1	8.6	7.4	5.5	11.4	6.5	18.6
	CA-c-36 家庭内での暴力使用 ◆ 対象の子どもの家庭内での暴力使用傾向をチェックする。以下の3項目を質問し、どれか一つ以上当てはまるなら"暴力使用あり"とし、さらに詳しい情報を収集する。		2.3	5.9	3.3	0.8	5.1	0.8	14.2
			7.2	11.4	6.5	3.7	12.4	5.7	17.6
	CA-c-37 自傷的行為 ◆ 以下の体験があるか本人に質問する。		4.6	6.9	3.3	4.9	3.4	1.7	12.4
			12.0	13.6	8.3	11.1	11.5	8.6	21.8
CB	CB-a-1 自己概念と自己評価	CB-a-1 自己概念と自己評価 ◆ 子どもが現在の自分をどう評価しているか、本人に尋ねる(Harter, Self Perception Profile for Children, 1988より)。	4.5	5.0	3.3	1.6	10.2	1.7	16.1
		14.1	19.0	10.3	10.3	26.0	13.2	30.0	
CB-a-2 自己制御性(自己志向性) ◆ 以下の項目を本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。(Cloninger, 1996, Junior-TCIから)。		4.5	4.2	2.5	1.6	7.6	1.7	17.0	
		14.6	13.5	11.3	10.3	25.0	12.4	29.0	
	CB-a-3 自己受容感 子どもが現在の自分を受け入れているかどうか、本人に質問する(Harter, Self Perception Profile for Children, 1988より)。		4.6	4.2	3.3	1.7	11.0	1.7	16.1
			14.8	13.5	11.3	10.4	28.0	11.3	29.0

評価分類	評価項目評価細目	質問項目及びその内容	基本版	養護相談	虐待相談	非行相談	障害相談	育成相談	保健相談
	CB-b-1 情緒表現の発達	◆ 孤独感(人間の個性への気付き)に関する以下の項目を本人に質問する(孤独感の類型判別尺度, 落合, 1983より)。	6.8	5.2	4.3	4.2	15.8	5.9	18.9
			18.3	16.3	11.4	12.4	32.0	15.2	33.0
CC.									
	CC-a 他者とのコミュニケーション能力	CC-a-1 言語および非言語的コミュニケーションの発達 ◆ 知能・言語検査の実施: 言語能力をできるだけ網羅的にアセスメントすることが可能な知能検査や言語検査を実施する。 ◆ 使用検査尺度: 下記から該当する数字を記入 11 1. WISC-III 知能検査 2K-ABC 心理・教育アセスメント・バッテリー 3. 新版K式発達検査 4. その他 ◆ 検査などの結果から言語発達について評価する	1.1	2.6	3.4	3.4	1.7	2.5	10.0
			12.5	13.7	11.5	13.6	12.7	11.7	22.4
	CC-b 他者との関係性	CC-b-1 共感性と協調行動 ◆ 以下の向社会的行動が見られるか、以下の項目を本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。(Strength and Difficulties Questionnaire, Goodman, 1999)。	4.5	3.4	3.4	2.5	8.5	2.5	17.0
			18.5	16.7	14.4	11.4	23.3	15.2	30.3
		CC-b-2 養育者との関係性の特徴(Inventory of Parent and Peer Attachment, Armsden & Greenberg, 1987; 対人的信頼感尺度, 酒井, 2002から) ◆ 子どもの主たる養育者およびその他の養育者に対する行動や感じ方について、以下の質問を本人や養育者に質問する。	2.3	1.7	1.7	1.6	5.1	1.7	15.2
			7.3	6.7	5.7	5.7	13.6	7.8	26.3
		CC-b-3 友だちとの関係性の特徴 ◆ 同年齢の子どもの間での関係性について、本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。(Strength and Difficulties Questionnaire, Goodman, 1999)。	3.4	3.4	3.3	1.6	6.9	1.7	14.3
			9.8	10.7	8.7	7.6	15.7	9.6	27.3
		CC-b-4 教師との関係性の特徴 ◆ 以下の項目を本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。	4.6	5.9	4.2	1.6	5.1	2.5	17.9
			14.8	17.5	10.5	8.5	16.5	10.5	30.3
CD.									
	CD-a 認知発達程度	知能検査の実施: 認知(知的)発達についてできるだけ網羅的にアセスメントすることが可能な知能検査を実施する。 ◆ 使用検査尺度: 下記から該当する数字を記入 ◆ 検査などの結果から認知(知的)発達について判断する ◆ 学業成績 学校の成績について尋ねる	1.1	1.7	0.8	1.7	1.7	0.0	10.9
			6.1	7.8	6.7	6.7	4.9	6.8	19.4
		CD-b 問題解決能力・意欲 ◆ 認知欲求と情報操作リテラシー 以下の質問を本人や養育者、教師に質問するか、観察する(認知欲求尺度, 神山他, 1991; 情報操作リテラシー尺度, 坂元, 2002より)	1.1	3.4	3.3	3.3	7.7	2.5	15.2
			13.4	15.7	15.4	12.5	17.6	12.6	26.5
CE.									
	CE-a-1 日常生活能力	CE-a-1 日常生活能力 ◆ 身辺自立の達成度 年齢相当の身辺自立が達成されているかどうか、検査や養育者に質問するかあるいは観察によって評価する。 ◆ 使用検査尺度: 下記から該当する数字を記入	0.0	1.7	0.8	3.3	5.9	2.5	9.9
			6.1	11.7	11.4	14.3	9.6	13.5	19.2
		CE-b 社会的規範意識の発達 ◆ 道徳的規範意識 以下の項目を本人、養育者、教師に質問するかあるいは観察によって評価する。	3.4	2.6	3.4	0.8	6.8	4.2	20.7
			14.6	12.7	12.5	9.5	24.5	18.3	34.7
CF.									
	CF-a-1 子どもの発達課題の達成状況	CF-a-1 子どもの発達課題の達成状況: "自律的行動の獲得と自立へのスタート" ◆ 子どもの自律的行動の獲得状況および自立に向けた発達状況について、CE-a-1, CD-b, CB-b-1, CB-a-2, CA-c 31, およびCA-e-37の結果や、面接、観察などの情報をから総合的に評価する。	2.3	2.6	1.7	2.5	6.0	2.5	12.7
			11.0	13.6	11.4	11.4	17.3	13.5	23.2
	CF-a-2 生育史	CF-a-2 妊娠中～出生時の状況 ◆ 対象の子どもの妊娠・出産は望まれたものだったかどうかを尋ねる(どれか1つを選択)。 ◆ 妊娠中と分娩の問題の有無について、母子健康手帳や養育者への質問などから確認 ◆ 出生時の問題の有無について、母子健康手帳や養育者への質問などから確認する	8.2	7.1	6.1	9.6	9.8	9.6	15.1
			14.8	14.7	13.5	13.5	13.7	13.6	21.4
			7.1	7.2	6.2	8.8	4.5	7.1	9.5
			15.0	14.9	15.5	14.6	13.9	13.7	18.6
		◆ 過去の哺乳形態(該当する数字を記入)	19.7	29.0	27.2	30.2	21.5	26.3	27.6
			22.4	30.6	28.7	30.7	23.5	26.7	29.3

評価分類	評価項目評価細目	質問項目及びその内容	基本版	養護相談	虐待相談	非行相談	障害相談	育成相談	保健相談
	CF-a-2 子どもの健康診査の受診状況	CF-a-22 乳幼児期の状況 ◆これまでの健診の受診歴とその結果 ◆幼児教育について ◆これまでの主な予防接種 ◆小学校時代について(子どもが中学生の場合)	8.3 (3.8)	5.6 (3.0)	6.5 (3.7)	9.2 (3.7)	5.6 (10.9)	7.3 (5.8)	9.7 (15.5)
	CF-a-3 既往歴	◆疾患既往とその治療歴(入院の有無) ◆怪我・事故とその治療歴	3.5 9.9	4.5 (11.0)	4.4 (10.8)	7.0 (15.7)	3.6 (10.0)	4.4 (12.9)	3.8 (10.3)
	CF-a-4 養育歴	◆実の親との離別経験の有無と期間	1.1 11.3	0.9 (11.0)	0.9 (11.8)	1.7 (12.7)	4.5 (16.0)	3.5 (12.9)	10.3 (22.7)
		◆託児経験の(保育所など)有無と期間、託児先(1つ選択)	8.3 14.6	8.3 (11.8)	9.1 (14.4)	13.5 (18.3)	13.0 (18.6)	10.9 (16.5)	17.3 (24.5)
	CF-a-5 その他の特記事項	CF-a-5 そのほかの特記事項 ◆特記事項の有無	2.6 11.4	4.2 (3.8)	4.2 (11.5)	6.1 (4.8)	4.2 (12.8)	3.1 (12.6)	5.4 (15.7)
	CF-b 子どもの気質的特徴	CF-b 子どもの気質的特徴 子どものふるまい方の特徴について、養育者に質問するか観察をおこなってみていく(Cloninger, 1996, Junior-TCIから)。	2.3 13.6	0.9 (2.0)	1.7 (10.8)	2.5 (10.7)	3.5 (15.0)	1.7 (13.7)	12.7 (23.7)
		◆持続性	3.4 13.8	1.7 (17.0)	1.7 (14.7)	1.7 (14.7)	3.4 (17.0)	2.5 (16.7)	12.8 (27.1)
		◆不安(損害回避)傾向	3.4 13.6	4.3 (18.0)	1.7 (10.8)	4.2 (14.7)	5.2 (20.0)	2.5 (14.7)	14.7 (30.5)

2. 家庭

評価分類	評価項目評価細目	質問項目及びその内容	共通要点版	養護相談	虐待相談	非行相談	障害相談	育成相談	保健相談
FA	FA-a 養育者およびメンバーの身体疾患・身体障害	FA-a 養育者およびメンバーの身体疾患・身体障害 :家族メンバーの現在の身体疾患・身体障害の有無について情報を得る。主たる養育者とそのほかの家族(対象の子どもを除く、対象の子どものきょうだいを含む)について該当者がいるかどうか確認する。 ◆現在の主たる養育者について	3.3	1.7	2.5	5.9	2.6	4.3	5.5
		◆養育に参加しているその他の家族メンバーの状況	4.4	3.4	4.2	7.6	4.3	4.2	7.2
		◆対象の子どものきょうだい	4.4	3.5	3.4	6.8	5.2	6.0	8.3
	FA-b 養育者および家族メンバーの精神障害	FA-b 養育者および家族メンバーの精神障害 :家族メンバーの現在の身体疾患・身体障害の有無について情報を得る。主たる養育者とそのほかの家族(対象の子どもを除く、対象の子どものきょうだいを含む)について該当者がいるかどうか確認する。 ◆現在の主たる養育者について	3.3	1.7	1.7	3.4	1.7	1.7	6.3
		◆養育に参加しているその他の家族メンバーの状況	3.3	3.4	3.4	5.0	4.3	4.2	7.2
		◆対象の子どものきょうだい	3.3	4.3	4.2	5.0	6.0	5.1	8.1

評価分類	評価項目評価細目	質問項目及びその内容	基本版	養護相談	虐待相談	非行相談	障害相談	育成相談	保健相談
	FA-c 養育者およびメンバーのその他の健康に関する問題	FA-c 養育者およびメンバーのその他の健康に関する問題 : 診断や治療がされていないかもしれないが、養育にとって重要ないくつかの問題(抑うつ、アルコール乱用、家庭内での暴力使用)についてここでチェックする。評価は主たる養育者を中心に2人までを対象としておこなう。 FA-c-1 養育者の抑うつ度 養育者の抑うつ症状と重症度をチェックする。以下の3項目を質問し、すべて“はい”なら精密用の自己記入式うつ病スクリーニング尺度を実施するなど、さらに詳しい情報を収集する(★DSM-IVより)。 ◆主たる養育者についての評価 ◆そのほかの養育者についての評価	2.2	1.7	1.7	1.7	3.4	1.7	7.1
		FA-c-2 養育者のアルコール乱用度 養育者のアルコール乱用度をチェックする。以下の5項目を質問し、すべて“はい”なら、さらに詳しい情報を収集する(★Smith, 1997より)。 ◆主たる養育者についての評価 ◆そのほかの養育者についての評価	3.3	1.7	1.7	1.7	4.3	1.7	8.9
		FA-c-3 養育者の家庭内での暴力使用 養育者の家庭内での暴力使用傾向をチェックする。以下の3項目を質問し、どれか1つ以上にあてはまるなら“暴力使用あり”とし、さらに詳しい情報を収集する。 ◆主たる養育者についての評価 ◆そのほかの養育者についての評価	2.2	1.7	0.8	0.8	4.3	1.7	9.0
FB.	FB-a-1 養育者との関係性の特徴	FB-a-1 養育者との関係性の特徴(Inventory of Parent and Peer Attachment, Arnsden & Greenberg, 1987; 対人的信頼感尺度、酒井, 2002から) ◆子どもの主たる養育者およびその他の養育者の子どもに対する行動や感じ方について、以下の質問を養育者に質問する。	2.2	0.9	0.8	0.8	3.4	2.5	7.1
	FB-a-2 配偶者間の情緒的関係	FB-a-2 配偶者間の情緒的関係 両親が存在する場合、または主たる養育者とそのパートナーとの関係性について以下の4項目について質問する。すべてに“いいえ”と回答するときには、配偶者間に問題が存在するかもしれない、さらに詳しい情報を収集する。(★夫婦関係尺度、Marital Adjustment Test, Lock, 1954; 菅原他, Marital Love Scale, 1998より) FB-a-21	2.2	2.6	0.8	0.8	5.1	3.4	12.5
	FB-a-2 配偶者間のコミュニケーション	FB-a-2 配偶者間のコミュニケーション	3.3	4.3	1.7	3.3	5.1	4.2	12.5
	FB-a-3 きょうだい関係	FB-a-3 きょうだい関係 ◆対象の子どもにきょうだいがいる場合、きょうだいのようすについて、養育者に質問するか観察する。	2.2	3.4	3.4	2.5	3.4	4.2	11.6
	FB-a-4 同居家族間のその他の関係性	FB-a-4 同居家族間のその他の関係性 家庭内のその他の対人関係について以下の質問をする。 ◆対立関係にあるのは	2.2	5.1	4.2	3.3	5.2	5.1	13.4
FC.	FC-a-1 家族関係の安定性	FC-a-1 家族関係の安定性 家族のまとまりのよさ(凝集性)について以下の質問をする。すべていいえなら、家族はまとまりを欠いているかもしれない、さらに詳しく情報を収集する(★FACES-III, Olson, 1997, 家庭の雰囲気尺度、菅原1999などより)	2.2	3.4	1.7	1.7	6.0	2.5	13.4
	FC-a-2 家族の行事	FC-a-2 家族の行事 ◆家族の行事や旅行などの活動が実施されているか質問する(★Family Activity Scales, Smith, 1985より)	6.7	10.3	8.4	8.3	14.5	9.3	21.4
	FC-b-1 メンバーの生活価値観	FC-b-1 メンバーの生活価値観 ◆主たる養育者その他の養育者の仕事・家庭生活・趣味に対する価値観がどれに近いかを本人たちか、あるいは面接者に尋ねる(近いもの1つを選択)	5.6	8.5	6.7	5.8	13.7	6.8	23.2

評価分類	評価項目評価細目	質問項目及びその内容	基本版	養護相談	虐待相談	非行相談	障害相談	育成相談	保健相談
FD.	FD-a-1 家族内での役割分担	FD-a-1 家族内での役割分担 ◆ 就労(生計の確保)・家事・子育ての3つの分担が家族内でどのように行われているか	1.1	1.7	1.7	2.5	8.6	4.2	14.2
	FD-a-2 家族内でのリーダーシップとその柔軟性	FD-a-2 家族内でのリーダーシップとその柔軟性 ◆ 家庭内での決定権のありかたについて質問する(★FACES-Ⅲなどより)。	3.3	4.2	4.2	3.3	10.3	4.2	16.8
	FD-b 問題解決機能	FD-b 問題解決機能 ◆ 今回の主訴となっている問題に対する家族メンバーの認識と取り組みの状況を尋ねる。	2.2	2.5	1.7	0.8	6.7	4.1	10.6
FE.	FE-a-1 住居のようす	◆ 同居家族 現在対象の子どもと同居している人全員の番号を記載する	3.4	3.5	4.2	3.4	4.3	5.1	6.3
		◆ 住居の形態 対象の子どもが生活している住居について、養育者などに質問するか、現況観察をおこなってみていく。(該当する番号を記載)	3.3	1.7	1.7	3.3	6.0	5.0	10.7
		◆ 住居の清潔度と乱雑さ(★Family Cleanliness Scale, Davie et al, 1984; CHAOS尺度: Psychometric Characteristics of the Confusion, Hubbub, and Order Scale, Matheny et al., 1995より)	3.3	2.5	1.7	3.3	10.9	6.7	12.4
		◆ 住居に対する住み心地の良さ	7.7	8.5	7.6	9.2	13.7	9.2	17.7
	FE-b-1 家庭の社会・経済的状況	FE-b-1 家庭の社会・経済的状況 ◆ 養育者の学歴 主たる養育者とそのほかの養育者の2名について情報を得る。選択肢の中から該当するものを1つ選んで記入。	3.3	7.6	8.3	8.3	12.7	8.3	18.6
		◆ 養育者の就労状況 主たる養育者とそのほかの養育者の2名について情報を得る。選択肢の中から該当するものを1つ選んで記入。	1.1	6.7	6.6	1.7	4.2	3.3	9.7
		◆ 家庭収入 家庭のおよその年収について尋ねる。同居家族全員の中で収入のある人について、ボーナスを含め、税込みで過去1年間の収入額を聞く。	2.2	2.5	2.5	6.6	11.0	10.8	18.6
		◆ 借金・ローン返済 借金やローン返済が家計をどの程度圧迫しているか質問する。	2.2	0.8	0.8	5.0	12.0	9.2	19.5
		◆ 養育者の職業 主たる養育者を始め、3人までの同居人の職業を尋ねる。あてはまる番号を記入する。	3.3	1.7	0.8	4.1	5.9	5.0	12.4
		◆ 就労形態 主たる養育者とそのほかの養育者の職業を尋ねる。あてはまる番号を記入。	5.5	3.4	3.3	5.8	8.5	6.7	15.0
		◆ 就労時間 所定内労働時間、残業時間、休日出勤、持ち帰り仕事、時間外の接待など、仕事と考えられる実質的な労働時間について、この3ヶ月を平均してみると1ヶ月あたり何時間くらいになるか尋ねる(実時間数を記入)。	4.4	6.0	5.0	7.5	11.1	8.4	17.9

評価分類	評価項目評価細目	質問項目及びその内容	基本版	養護相談	虐待相談	非行相談	障害相談	育成相談	保健相談
	FE-c 養育機能(ペアレンティング)	FE-c-1 子育てに関する基本的スキル(環境設定) 養育に関する基本事項が遂行されているかどうかを確認する。すべてが「いいえ」なら、養育者の子育てスキルは低く対象の子どもの養育環境は良質なものではないかもしれない(主たる養育者について判断)。	4.4	2.5	1.7	2.5	5.1	4.2	11.5
		FE-c-2 教育的関心度 対象の子どもの教育に対する養育者の関心や行動をみる。養育者に直接尋ねるか、観察する(HOME, Bradley, 1983、ほか)。	4.4	4.2	3.3	3.3	7.6	4.1	19.5
		FE-c-3 養育行動 主たる養育者その他の養育者の対象の子どもに対するかかわり方について評価する。観察するか、養育者に直接質問する。ケアの温かさや過干渉傾向、および不適切な養育行動(マルトリートメント)の3つの側面から見ていく(①と②は、Parent Behavior Inventory; Lovejoy et al, 1999 Parental Bonding Instrument; Parker et al, 1979; Maternal Sensitivity Scales; Ainsworth, 1969より、③はParent Behavior Inventory; Lovejoy et al, 1999、「虐待防止の手引き」厚生労働省より)。 ① ケア:得点が高いほど良好なかかわり ② 過干渉(行動制限):得点が高いほど問題のあるかかわり ③ 不適切な養育行動(マルトリートメント):得点が高いほど問題あるかかわり	3.3	2.5	2.5	2.5	4.2	3.3	11.5
		FE-c-4 子育てでストレス(ストレッサー評価) 子育てに関する困難をどの程度抱えているか尋ねる(Daily Hassles Scale, 子育て支援尺度、子育てバーンアウト尺度など)。	2.2	2.5	1.7	1.6	3.4	3.3	7.1
		FE-c-5 子育てで意識 子育てに関するポジティブ、ネガティブ両面の意識について質問する(菅原他,1999より)。多くの養育者は両面を感じているだろうが、もしもネガティブな気持ちのみが膨らんでいる場合には、FE-c-3と同様に子育て支援の必要度は高いかもしれない。	4.4	5.9	3.3	3.3	6.7	5.0	10.6
		FE-c-6 子育てでのサポート資源 主たる養育者について、子育てについて相談したり、子どもを預かってくれる対象がいるかどうかを質問する。あてはまる番号を列記する。	5.6	3.4	3.3	6.7	5.1	6.7	9.8
		FE-d 家庭全体としての社会参加度 家庭全体として社会(地域や職場)にどのように関わっているか質問する。すべてが「いいえ」なら、当該の家庭は社会から孤立しているかもしれない、さらに詳しい情報を得る必要があるかもしれない。	4.4	6.9	5.1	4.2	6.0	7.6	14.4
FF.	FF-a 家族の特徴(家族アイデンティティ)	FF-a 家族の特徴(家族アイデンティティ) ◆ 現在の家族の戸籍的關係 ◆ 養育者たちの出自家族との関係性 ◆ 現在の家族のありかたに関するメンバーの受容感	3.3	1.7	0.8	2.5	5.1	3.3	13.3
	FF-b 家族史	FF-b 家族史 ◆ 対象の子どもの誕生から現在までのおもな出来事(ライフイベントの種類と発生時期)	3.3	1.7	1.7	1.7	5.1	3.3	16.8
	FF-c 家庭の課題	FF-c 家庭の課題 ◆ メンバーの家族・家庭のあり方に対する課題意識と将来計画 以下の内容について、家族メンバーの将来的希望や展望について尋ねる。あるいは、現在の家庭について問題点や解決の方向について自由に尋ねてみて、その内容から判断する。具体的な内容はスコアリングシートに記載し、今後の支援方針の作成の参考にする。	5.5	5.1	5.8	5.8	8.5	5.8	18.6

3. 地域社会

評価分類	評価項目 細目	質問項目及びその内容	共通 要点版	養護 相談	虐待 相談	非行 相談	障害 相談	育成 相談	保健 相談
SA.	SA-a-1	SA-a-1 近隣の同年齢の子どもの存在と交流状況 対象の子どもの居住する地域に同年齢の子どもたちがどの程度存在するのか、また対象の子どもがその子どもたちと交流できているかどうかについて、おおまかな状況をつかむ。	4.5	6.8	6.7	3.3	8.5	4.2	22.1
	SA-a-2	SA-a-2 近隣との地域コミュニケーションのようす 対象の子どもの居住する地域の地域交流や連帯意識のありかたについて、また対象の子どもの家庭がそれらにどのように参加しているか、おおまかなようすをつかむ(該当するもの1つ)。	6.7	7.6	6.7	5.0	9.3	8.3	23.0
	SA-b	SA-b 居住地の状況と養育の利便さ ◆ 対象の子どもの居住地域の特徴 対象の子どもの現在の居宅が属する地域を1つ選択する。	10.0	14.3	13.3	13.2	15.3	14.2	24.8
		◆ 周辺環境に関する満足度	12.4	19.0	17.9	17.8	18.1	16.2	27.3
	SA-c	SA-c 地域の安全性・健全性 ◆ 居住地域の安全性	14.4	19.3	17.5	12.4	16.9	17.5	26.5
	SA-d	SA-d 地域の遊び場とその利用状況 ◆ 対象の子どもの居住地域内の児童館、児童公園(遊園)の有無とその活動状況、また対象の子どもの家庭のそれらへの利用状況について養育者などに尋ねたり、調べたりする ① 児童館(1つ選択) ② 児童公園(1つ選択)	18.2	23.1	22.9	22.7	20.7	21.2	31.5
	SA-e	SA-e 文化的環境 居住地域の子育て関連の養育者や子ども向けの事業や学習機会の有無とその利用のようす(1つ選択)	15.9	21.6	19.7	22.0	20.0	15.4	31.8
	SA-f	SA-f 自然環境 ◆ 近隣の自然環境のようすや自然公園の有無、および対象の子どものそれらへのアクセス状況について見る(1つ選択)。	27.3	30.4	30.2	32.5	30.7	26.7	34.9
SB.	SB-a,b,c,d	SB-a,b,c,d ソーシャル・サポートの実態と評価 ◆ 子どもや養育者、あるいは家庭に対する現在の支援者および将来期待できる家庭外のサポート資源についての見通しを聞く。面談者に直接尋ねるか、調査して判断する。現在、困ったときに頼りにしているのはだれか、尋ねる(あてはまる人すべてをあげる)。	3.3	3.4	1.7	3.3	2.5	5.8	11.5
SC.	SC-a-1	SC-a-1 対象の子どもが利用している教育・福祉機関(施設?)の養育環境 対象の子どもが所属する教育・福祉機関について、当該機関の種類、利用時間、養育環境の良否さについて情報を収集する。必要ならば現況観察をおこなう(★NICHHD, Early Child Care Research Network, 学校環境評価尺度など) ◆ 利用の実態 ◆ 学校環境の適切さ(学校環境評価尺度, 1983など)。対象の子ども本人に尋ねる。	4.4	5.0	5.8	6.6	4.2	5.0	16.1
		◆ 学校と家庭との連携の状態(学校との信頼関係尺度、伊藤ほか、20043)	4.6	5.2	2.6	2.5	4.3	4.3	14.0
SD.	SD-a	SD-a 利用可能なおもなサービス・支援機関の有無とその利用度 ◆ これまでに子育てに関して行政機関や民間機関に相談したことや利用したこと、あるいは活動に参加したことあるかどうか面談者に尋ねる。同時に、今回のケースの解決に役立つ機関があるかどうか、面談者とともに検討する。	3.3	4.2	4.2	7.4	4.2	5.8	10.7
	SD-b	◆ 各種手当ての利用状況について尋ねる	4.5	2.5	8.4	10.8	2.6	9.2	13.5

子ども家庭総合評価票 記入マニュアル
(全バージョン共通)

子ども家庭総合評価票

* 記入マニュアル(全バージョン共通) *

- * 記入にあたっては、各年齢版の“記入要領”をよくお読みください。
ここに掲載されたリストや一覧表は別冊“子ども家庭総合評価票 記入のめやすと一覧表(全種類共通版)”に掲載されています。
- * この記入マニュアルは、全年齢版について解説しています。

◆ はじめに

1. 子ども家庭総合評価票は、ケースとなったお子さんのⅠ：現在の心身の健康度や発達状況、活動のようす、生育歴といった子ども自身の特徴と、Ⅱ：子どもが現在生活している家庭の養育機能を中心とした特徴、Ⅲ：子どもと家庭を取り巻く地域の特徴やサポート力についての情報を集めて整理し、ケースの理解や支援計画作成時の基礎資料として利用していただくものです。
 2. 今回の評価票のⅡ：家庭パートおよびⅢ：地域パートでは、子どもが現在生活している出自家庭(子どもが生まれた家庭)を対象として作成されています。対象の子どもが収容型施設で生活している場合には、以前に生活していた出自家庭の情報収集や評価に利用してください。
 3. 評価票中の ●主たる養育者 は、家庭の中で対象の子どもの世話を主として担当している人をいい、 ●その他の養育者 は、主たる養育者に次いで子どもの世話を担当している人をいいます。家庭の情報を収集する際には、“主たる養育者”と“その他の養育者”がそれぞれ誰かを最初に決定してください。評価票の最初の“基本情報”の部分で、それぞれ誰に相当するかを尋ねていますので、以降の項目では、そこで選択した人と同じ人を“主たる養育者”あるいは“その他の養育者”として評価していきます。
 4. 記載にあたっては、本人および家族や保育士・教師などからの聞き取り、当該機関でおこなう心理診断・社会診断・医学診断の結果などから情報を収集し、記入要領にしたがってケースの特徴を評価してください。情報源を尋ねている項目では、該当する情報提供者の数字を選んで○印をつけます。
 5. 本評価票では、ケースが持つ“子ども・家庭・地域の問題性（困難さ:Difficulty）”と同時に、“良好に機能している面（強み:Strength）”の両面を評価していきます。
 6. 評価票の記載が終わりましたら、各項目で選択した番号を総括一覧シートに転記します。採点基準に従って留意の必要度を判定し、支援の課題を参照してください。総括一覧シートは、ケースのまとめや支援計画作成、判定会議などの資料として役立ててください。
- * 本マニュアル中の<共通>は全版共通、ほかは< >内の版での記載を指しています。

<基本情報>

◆ ケースに関する基本情報と本評価票を記入した担当者について記載していきます。

① 作成完了日 年 月 日 担当者氏名:

⇒作成には相当期間を要する場合がありますので、作成が終了した日付を記載してください。

② 担当者職種 1. 児童福祉司 2. 心理判定員 3. 児童指導員 4. 保育士
5. 医師 6. 看護師 7. 保健師 8. その他()

⇒複数の担当者で記載する場合には、全員の氏名および職種に○印を付けます。

③ 対象児(西暦)

氏名

生年月日:()年 ()月()日

年齢:満()歳 ()ヶ月

住所:

TEL

④ 性別:1. 男児 ・ 2. 女児 出生順位:第()子

⇒出生順位は、ここでは出自家庭での生まれ順を記載します。

⑤ 子どもの現在の居住場所

1. 出自家族(子どもが生まれた家庭) 2. 里親の家庭 3. 施設(小舎制) 4. 施設(大舎制)

⑥ 現在の養育者(主たる養育者とその他の養育者)

⇒現在の子どもの“主たる養育者”は、家庭の中で対象の子どもの世話を主として担当している人を行い、“その他の養育者”は、主たる養育者に次いで子どもの世話を担当している人を行います。家庭の情報を収集するなかで、“主たる養育者”と“その他の養育者”がそれぞれ誰かを決定してください。以降の項目では、ここで選択した人と同じ人を“主たる養育者”あるいは“その他の養育者”として評価していきます。

⑤ 保育・教育機関・就労状況

1. 公立保育所 ()歳児クラス 2. 私立保育所 ()歳児クラス

3. 保育室・ベビーホテル等 4. 公立幼稚園 ()歳クラス

5. 私立幼稚園 ()歳クラス 6. 公立小学校()年

7. 私立小学校()年 8. 施設内小学校()年 9. 公立中学校()年

10. 私立中学校()年 11. 施設内中学校()年 12. 養護学校

13. 公立高等学校()年 14. 私立高等学校()年 15. フリースクール

15. 就業(職種) 16. アルバイト

17. 未就園・未就学

18. 未就職

19. その他()

⇒ 各年齢バージョンにはそれぞれの年齢で該当する保育・教育・就労先があげられています。就職している場合には()内に、めやす表の「表 15 職業リスト」から該当するものを選び、番号を記入してください。

⑥ 主訴(主訴一覧から番号選択) (-)/(-)/(-)/(-)/
(-)/(-)

★特記事項: 主訴が最初に問題となった時期 ()年()月頃から(西暦で)

主訴の深刻さ 4. 問題は深刻で、子どもの日常生活を大きく損なっている

3. 問題はやや深刻で、子どもの日常生活を部分的に損なっている

2. 問題はあるものの、子どもの日常生活への影響は軽微である

1. 問題はあるものの、子どもの日常生活への影響はない 0. 判断困難

⇒主訴は、下欄から選んでカッコの中に数字を記入して下さい。各カテゴリーの“その他”および“7: その他の相談”を選択された場合には、具体的な内容を下線部分に記入して下さい。主訴が複数あげられた場合には、すべての種類について番号を記載します。その場合、主訴の発生時期と深刻度は最も問題になっている主訴1つについて評価してください。

1. 非行	1-1. 窃盗・万引き 1-2. 強盗 1-3. 性的逸脱(援助交際を含む) 1-4. 恐喝 1-5. 家出 1-6. 放火 1-7. 粗暴 1-8.その他
2. 養護	2-1.保護者の家出失踪 2-2.保護者の死亡 2-3.離婚 2-4.保護者の服役 2-5.保護者の入院 2-6.保護者の精神障害(疑いを含む) 2-7. 保護者の身体障害・疾患 2-8. 未婚 2-9. 保護者の経済問題(貧困、借金等) 2-10. 養育拒否 2-11. 遺棄 2-12. ホームレス(住所不定、放浪等)2-13. その他
3. 虐待	3-1. 身体的虐待 3-2. 心理的虐待 3-3. ネグレクト 3-4. 性的虐待 3-5. DV の目撃 3-6. その他
4. 育成	4-1. 不登校 4-2. 引きこもり 4-3. 反抗挑戦的行動 4-4. 友人関係 4-5. 注意欠陥・多動 4-6. 家庭内暴力 4-7. 緘黙 4-8. 学業不振 4-9. その他
5. 保健	5-1. 未熟児 5-2. 虚弱 5-3. 病気 5-4 その他
6. 障害	6-1. 肢体不自由 6-2. 発達障害 6-3. 重症心身障害 6-4. 知的障害 6-5. その他の精神障害 6-6. 視聴覚障害 6-7. 言語・音声障害 6-8. その他
7. その他の相談	7-1. 育児に関する相談 7-2. その他

⑦ 種類 1. 相談 2. 通告 3. その他()

⑧ 相談・通告経路 1. 保護者 (1-1.父親 1-2.母親) 2. 親族 (祖母・祖父・その他)

3. 保育所 4. 保健所 5. 医療・保健機関 6. 警察

7. 近隣 (具体的に:) 8. その他 (具体的に:)

⑨ 相談受理日(西暦) 受理: ()年()月()日

⑩ 過去の相談受理 1. なし(今回が初回) 2. あり (ありの場合、過去の受理日を記載)

→ 1回目:()年()月()日

2回目:()年()月()日

3回目:()年()月()日

4回目:()年()月()日

⇒過去に同じケースについて相談を受けた経歴がある場合に過去の相談受理に記載します。転居などで他地域の児童相談所などで受理した経緯が明らかになっている場合もここに記載します。

⑪ 評価票記載完了までの面談回数と対象 計 ()回

* 情報収集者は(複数選択可) 1-1. 父親 1-2. 母親 1-3. 親族(だれ:)

1-3. 近隣 (具体的に:)

1-4. 保育・教育・職場関係者 1-5. その他()

⇒受理から本評価票の記載が終了するまでにおこなった面談数と対象者を記載します。教師や保育士は1-4. に、警察や行政関係者などは1-5. を選んでください。

⑫ 相談受理に関する特記事項

I 子どもに関する事項

<生育史>

① 出生時の問題 <乳児～幼児版、障害・保健版の児童・思春期版>

・出生時体重が2500グラム未満

2. はい ()グラム 1. いいえ 0. 判断困難

・在胎週数36週以前の早期での出産

2. はい ()グラム 1. いいえ 0. 判断困難

・出産時に問題があった:

2. はい (具体的に:) 1. いいえ 0. 判断困難

⇒対象の子どもが出生時に低出生体重(2500グラム未満)や早期産(36週以前)、あるいは発育の不全や先天異常などの問題があったかどうかを母子健康手帳の記録などから判断します。

とくに乳児期においては低出生体重・早期産などによる未熟な出生時状況を有するかどうかは重要な情報となりますので、できる限り情報を収集していきます。

② 妊娠・出産に対する実父母の様子 <乳児版および養護・虐待・育成相談の幼児版>

- 対象の子どもの実母は： 4. 妊娠・出産は望んでいなかったのに、誕生を後悔している
3. 妊娠・出産は望んでいなかったのに、誕生した今でも困惑している
2. 望んだものではなかったが、今は誕生を喜んでいる
1. 妊娠は望んでいたものだったので、誕生を喜んでいる
0. 判断困難

- 対象の子どもの実父は： 4. 妊娠・出産は望んでいなかったのに、誕生を後悔している
3. 妊娠・出産は望んでいなかったのに、誕生した今でも困惑している
2. 望んだものではなかったが、今は誕生を喜んでいる
1. 妊娠は望んでいたものだったので、誕生を喜んでいる
0. 判断困難

⇒対象の子どもの妊娠・出産が望まれたものであったかどうかを確認します。望まれなかった妊娠・出産が受容されないまま現在に至っている場合は、子どもとの愛着形成や養育の困難などの様々な親子関係の問題に関連するケースもありますので、その他の情報と合わせて慎重に検討します。

③子どもの健康診査の受診状況 <乳児版>

- 生後1ヶ月健診を受けた 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難
生後3~4ヶ月健診を受けた 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難
1歳半健診を受けた 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難

④健診での問題の有無 <乳児版>

健診で子どもの状態に問題が指摘されたことがある

2. はい 1. いいえ 0. 判断困難

↓

いつ?: ()ヶ月健診時・()ヶ月健診時・()ヶ月健診時

(具体的に: 1. 発育の問題 2. 疾患関連の問題 3. その他)

⑤これまでに受けた主な予防接種 <乳児版>

- 麻しんの予防接種を受けた 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難
ポリオの予防接種を受けた 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難
BCG接種を受けた 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難

⇒ 健診や予防接種のようすについて母子健康手帳などから情報収集します。養育放棄などの場合には健診や予防接種をほとんど受けさせていないケースもありますので、ほかの情報と併せて検討していきます。

⑥対象児童の疾患既往の有無 <共通>

2. はい ⇒ 疾患・障害の種類: () () () 1. いいえ 0. 判断困難

⇒種類については、めやす表の表7「主要身体疾患および身体障害の種類」と表8「主な子どもの精神障害」から該当する数字を選んで記入します。

⑦怪我・事故 <共通>

*これまでに大きな怪我をしたり事故にあった

2. はい (具体的に:1. やけど 2. 墜落 4. 転倒 3. 交通事故 4. その他)

1. いいえ 0. 判断困難

⇒ 虐待による怪我や事故でないかどうか、慎重に判断する必要があります。

⑧養育歴 <共通>

・離死別経験

実母とは: 1. 経験なし 2. 過去に別居経験あり 3. 別居中 4. 離別(離婚・失踪・その他)

5. 死別(病死・自殺・他殺・その他) 6. 母親不詳

実父とは 1. 経験なし 2. 過去に別居経験あり 3. 別居中 4. 離別(離婚・失踪・その他)

5. 死別(病死・自殺・他殺・その他) 6. 父親不詳

⑨教育・保育歴 <幼児版以降>

幼稚園に通園(3年保育・2年保育): 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難

保育所に通所: 2. はい ()歳~()歳まで 1. いいえ 0. 判断困難

小学校は年齢相当に終了: 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難

中学校は年齢相当に終了: 2. はい 1. いいえ 0. 判断困難

過去の教育・保育歴中に大きな問題があった

2. はい (具体的に:)1. いいえ0. 判断困難

★生育歴に関する特記事項

特記事項の有無1. あり 2. なし

*具体的に:

⇒ 現在までの実父母との離別・死別の状況や、保育・教育機関での就園・就学が順調なものであったかどうかに関する情報を収集します。

<心身の健康度：“健康な心身をもつ”>

：子どもの現在の身体と心の発育・発達を評価します。ここでは、子どもの心身の発育や発達に歪みや異常、遅れが認められないかどうかをみていきます。

① 身長()cm 体重()kg <共通>

(情報源は?： 1. 測定 2. 養育者 3. 母子手帳、保育所、学校、4. その他)

身体発育(めやすと一覧表の別紙1・2の男女別発達発育曲線上にプロットして以下を判断)

身長:4. 3 %未満 3. 3~10% 2. 97%以上 1. 標準以内

体重:4. 3 %未満 3. 3~10% 2. 97%以上 1. 標準以内

⇒0歳から18歳までの男女別発達発育曲線は、出生から就学前までの14,115件の身長および体重の発育データ(平成12年、厚生省)と、学校保健統計調査で得られた幼稚園年長クラスから高校3年までの695,600件のデータを用いて作成されています(厚生労働省の「食を通じた子どもの健全育成のあり方に関する検討会」)。身体発育には大きな個人差がありますが、養育不良による発育不全や肥満、思春期の不健康なやせなどを早期に発見するためには、発達発育曲線のパーセンタイル値が参考になります。身長および体重のパーセンタイル曲線にケースの身長・体重をプロットして位置を確認してください。

② 歯科学的発達状況

・乳歯の出現状況 <幼児期版>

4. 大きく遅れている(1歳すぎても未出現)

3. やや遅れている 2. 月齢相当 1. 月齢以上 0. 判断困難

・永久歯の出現状況 <児童期版および思春期版>

4. 大きく遅れている(8歳過ぎても未出現)

3. やや遅れている 2. 月齢相当 1. 月齢以上 0. 判断困難

⇒ 歯の発達には大きな個人差がありますが、おおよその発達状況についてめやす表を参考にして評価します。

<参考めやす表：乳歯の発達>

6~8ヶ月頃 : 下前歯2本程度

9~10ヶ月頃 : 4本程度(上下前歯2本ずつ)

10~11ヶ月頃 : 6本程度(上前歯4本・下前歯2本)

12ヶ月頃 : 8本程度(上下前歯4本ずつ)

1~1歳3ヶ月 : 14本程度(前歯+第一乳臼歯)

1歳6ヶ月~2歳 : 16本程度(+犬歯)

2歳~3歳 : 3歳頃までに20本完了(+第二乳臼歯)

＜参考めやす表：永久歯の発達＞

- 5～7 歳頃 : 上下の奥歯(第1大臼歯)が生えてくる
- 6～8 歳頃 : 上下の中切り歯と側切歯各 4 本計 8 本程度
- 9～11 歳頃 : 犬歯が生えてくる
- 10～12 歳頃 : 第1・第2小臼歯
- 11～13 歳頃 : 第2大臼歯が生え、計 28 本が出揃う

・未処置歯 <共通> 4. 出現本数の 60%以上 3. 59～40% 2. 39～10%

1. 処置済み・う歯なし 0. 判断困難

⇒処置されていない歯(虫歯)について、出現している歯数中のだいたいの割合で判断します。未処置数が極端に多いときには養育不良による放置や口腔衛生に関する養育の問題などが存在する場合がありますので、他の養育に関する情報とあわせて検討してください。

③ 栄養状態 <共通>

- ・食欲 4. 拒食状態 3. かなり不振 2. やや不振 1. 正常 (共通)
- ・偏食 4. 異常な偏食 3. かなり偏食 2. やや偏食 1. なし (幼児期以降)
- ・排出が伴う異常な過食行動の有無 2. あり 1. なし <思春期以降>

⇒哺乳・摂食状況(食欲) 最近 1 ヶ月程度の期間について、病気時ではないときの食欲について情報収集してください。食欲不振と偏食傾向についてそれぞれ判断してください。以下の留意点については、とくに思春期以降の女兒について注意深く検討します。摂食障害が疑われる場合には、隠れた極端な過食がないかも確認します。

＜留意点＞ 身体的原因や養育上の問題からではなく十分に食べないことが継続し、体重増加がまったくないか、または著しい体重減少を伴う場合や、あるいは極端な過食(自発的嘔吐などを伴うこともある)が見られる場合は、DSM-IVの摂食障害(神経性無食欲症、神経性大食症)を疑う必要があり、精査する。

・現在の哺乳形態 <乳・幼児期版>

1. 母乳栄養 2. 混合栄養 3. 人工栄養 4. 母乳やミルクは終わっている 0.判断困難

・離乳食の開始・進行状況 (乳幼児期)

1. 完了(歳 ヶ月) 2. 進行中 3. 未開始

⇒離乳食の開始・完了時期については以下のめやすを参考にしてください。

＜参考＞

- * 離乳食の開始時期:4 ヶ月～6 ヶ月頃開始、5 ヶ月頃が標準的な開始時期
- * 離乳食の完了時期(栄養素摂取のおおかたが母乳・ミルク以外の食物に移行する)
:12 ヶ月～18 ヶ月頃、13 ヶ月頃が標準的な完了時期